

若者等活動拠点施設整備に向けた検討会(平成30年度第3回)結果報告

日時 平成30年6月10日(日) 午前10時00分～12時00分

場所 旧村田邸

出席者 検討メンバー 23名

事務局(高山市企画課、文化財課、都市政策部)7名

サポートメンバー(横浜国立大学 野原准教授ほか学生5名)

内容

1. あいさつ(開会) 北村課長

- ・初めての現地での検討会開催
- ・本プロジェクトのサポートをいただいている横浜国立大学の野原准教授、ゼミ生も参加

2. 内容

(1)全国の事例紹介 横浜国立大学 渡辺、野原准教授

地域や背景等は異なるが、共通として、地域や団体が施設の管理運営(マネージメント)に参画し、工夫されている事例としてピックアップ

- ・石川県金沢市 金沢学生のまち市民交流館(行政)
昭和初期建築の卸商店や土蔵を改修、1階はフリースペース、2階は有料の活動スペース
まちづくりコーディネーターや市職員が定期的に駐在
- ・京都府京都市 龍谷大学 深草町家キャンパス(私立大学)
築150年の母屋、離れ、蔵、米蔵を改修、地域住民や学生、卒業生は無料で使用可
裏庭の畑で野菜を作って食べる行事、地域の歴史をまとめた八ミリフィルムの上映会などを開催
- ・東京都台東区 市田邸(NPOたいとう歴史都市研究会)
布問屋を東京芸術大学と有志(大学OBなど)が改修、若者が居住しながら芸術文化活動
まちの歴史を愛する人の手によって守られている事例、納涼カフェなどを開催
- ・兵庫県篠山市 NIPPONIA(民間ホテル)
昔ながらのしつらえを活かした改修、吹き抜け空間の魅力を活かした整備
- ・富山県高岡市 山町ヴァレー(民間、複数テナント)
伝建地区内、山町筋の町並に調和する外観、イベントもできる中庭、レンタルできる和室
コンシェルジュが常駐、蔵が中庭を挟んで奥に立ち並ぶのが旧村田邸と類似

質疑

Q. コーディネーター、コンシェルジュが居るのは良いと感じた

A. 旧村田邸も常駐の管理人を置く予定。コーディネーターと呼ぶかはさておき、とても大事な部分と思っている

A. 使い方などを提案できる。人の目があることが様々に発展するヒントとなる

Q. 事例は全て公共の施設か

A. 完全な公共は一つ目。はじめの三つは公共寄り、うしろの二つは完全に民間

Q. 大学がない地域は含まれるか

A. 含まれず、はじめの三つは大学が深く関わっている。高山に大学はないが、飛騨高山大学連携センターがある

(2) シートの記入、5 グループに別れ意見交換

「やりたいこと、やってほしいこと」「やらない方がよいこと」

(3) 意見発表

- ・ 2 階の板の間が大学のゼミ発表などで使えるとちょうど良いと感じた
- ・ 飛騨高山の歴史文化の研究会や勉強会、サロンなど(無機質な公民館、会議室などでなく)
- ・ 古民家の暗さや暑さを肯定した、楽しめるような使い方(映画や納涼イベントなど)
- ・ 一つの建物に様々な個性があり、色々な可能性がある。動かさないものを置くのではなく、照明や備品等を出し入れできるような使われ方が良いと感じた
- ・ 地域の方より、建物の歴史的背景を教えられ建物自体に魅力があり、体験できるような場所となる良いと感じた
- ・ 大学生と地元の児童生徒、若者が話し合い、交流できる場になったら良いと感じた
- ・ 座敷で議論したが居るだけで心が安らいだ。学生達の家や学校以外の居場所、フリースペース(自由に学習や談話)にできれば。ここから三味線や琴の音が聞こえてくるとなお良いと感じた
- ・ あらかじめ決めて向かう部分、スタートした後も色々な企画が生み出されて発展していく部分、それらを議論していく仕組み、マネジメントしていく人が重要と感じた
- ・ この場所が地域になじんでいくにはある程度時間がかかる、出来上がった以降も考えていく仕組みが必要と感じた
- ・ 事例紹介で少しイメージが沸いた。この地域でやっていくからには、地域の人と仲良く、皆が楽しみに来られるような場所づくりを話し合っていきたい
- ・ 何で若者拠点が必要なのかを議論し、良い対話になった。エネルギーのある建物で、その良さや強みをいかに活かしてどう発信していくか、有効に使えるかを考えていく必要がある
- ・ 現地に 2 回目の訪問となり、あらためて人が居て成りたつ場所と感じた。皆で意見を刷り合わせながら、人の居る場所を作っていけたら
- ・ 検討会の高校生たちが、大学生となった時に、友達を連れて来られるような場所になれば良いと感じた
- ・ 高山全域の祭をしている人の気概を高めあうようなスペースになって欲しい
- ・ 祭が地域に密接ということがよく分かった。この建物が守られてきた裏側に、大切にされてきた想いや、繋いできた歴史や文化の重みを感じられた。祭について語る場、それを外部に発信する場になると良い
- ・ 大学生と地元の学生がつながれる場所になると良い、地元の生の声を聞けると良い
- ・ アドバイスや高めあうための事務局スタッフ、コーディネーターの存在が必要
- ・ イベントがあるから人が集まるのではなくて、日常的に人が居られる場所となることも大切
- ・ 子育て世代のママ達がほっこりできるフリースペースがあると良い
- ・ 地域の若者でも高山祭に関わる若者の努力などを知らないため、伝えられる施設になると良い
- ・ 高山市の施設のなかでも特徴を持った建物になると良い

- ・祭に関わる親世代の集まる場所はあるが、若者世代の集まる場所がないため、そのような場所になると良い
- ・和の文化を若者に伝えていける場所、古い町並と祭を守っていくためにどうすればよいか若者が語り合う場所
- ・祭を守っていくための人を集めるためには、長い時間をかけて取り組んでいく必要があり、そのような場になっていくと良い
- ・今日の検討会のような使い方が良いと感じた

野原先生講評

- ・それぞれのグループでよいディスカッションになっており、会場が現地だったのが大きいと感じた
- ・これから、具体的にどうしていくか決めていかなければならない時も来ると思うが、それぞれ感じたり考えたことを反芻しながら、考えていてもらいたい
- ・大学としても引き続きサポートしていくので声をかけてもらいたい

3. 閉会 北村課長

- ・野原准教授、学生を含め、長時間に渡る議論のお礼
- ・引き続き議論を深めていきたい

以上